

愛知大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

2025（令和 7）年度 自己点検・評価報告書

■ 自己点検・評価を行う体制

愛知大学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会

責任者 加納 寛（教学担当副学長）

■ 2025(令和 7)年度のプログラム履修・修了状況

名古屋・豊橋校舎各教務課にてプログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータは数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、プログラムの評価・改善に活用している。

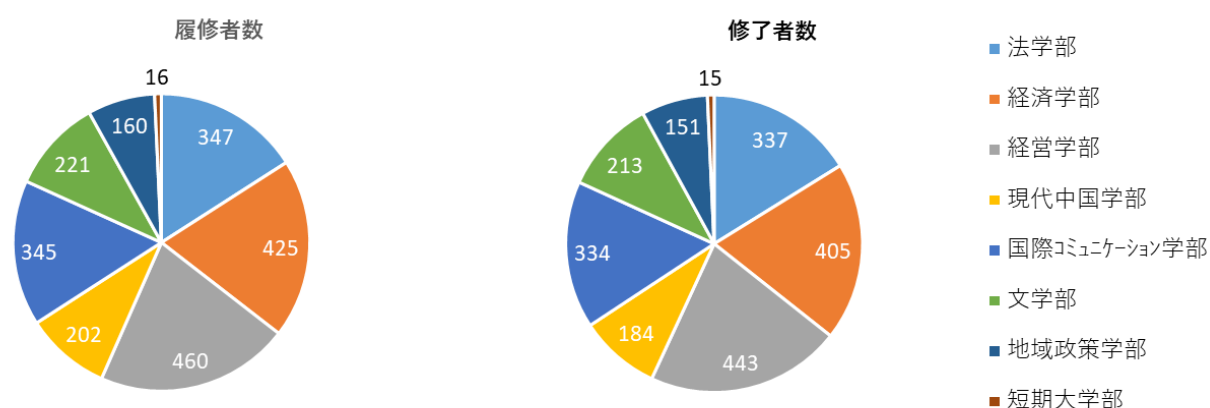
2025(令和 7)年度のプログラム履修・修了数は以下のとおり。

（2025(令和 7)年度 履修者・修了者）

履修者数 2,176 名

修了者数 2,082 名

学部別（短期大学部含む）内訳



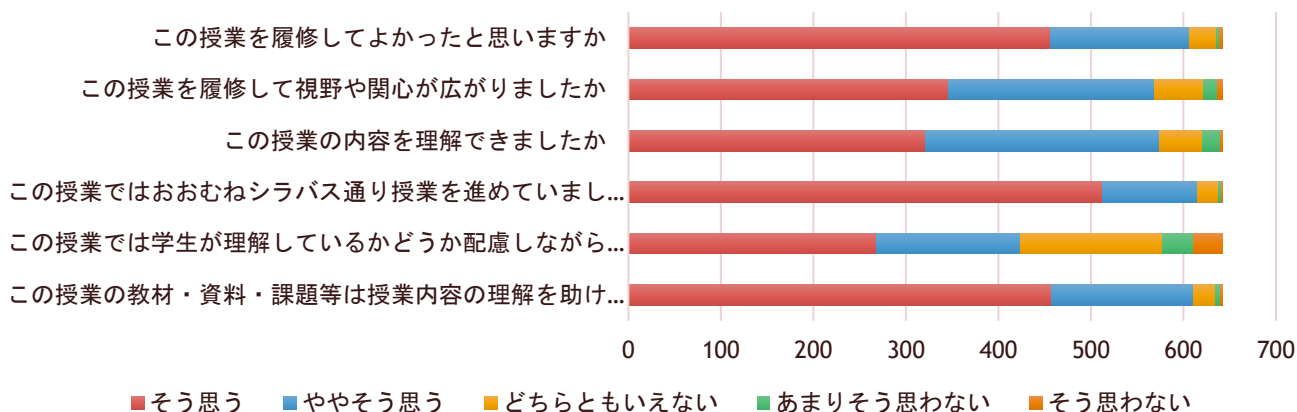
プログラム全体の通年での履修定員枠 2,400 人（名古屋キャンパスを前年度から増枠）。定員枠増に伴い履修者数も増加しており、依然としてプログラムに対する学生の関心が高いことが伺える。

	2025 年度	2024 年度
履修定員	2,400（前年比 +800）	1,600
履修者数	2,176（前年比 +592）	1,584
修了者数	2,082（前年比 +551）	1,531

■ 学生の理解度、プログラムの評価

学習・教育支援センターで毎年度実施している「学生による授業評価」アンケートの結果から、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にて、受講者の理解度等を分析し、プログラムの評価・改善に活用している。2025(令和 7)年度の「データサイエンス入門」(プログラムの必修科目)のアンケート結果では、「この授業の内容を理解できましたか」という設問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は全体平均より高く、理解度は高水準にあることが伺える。他方で、「この授業では学生が理解しているかどうか配慮しながら授業を進めていましたか」という設問について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は全体平均より低く、昨年度に引き続き、改善の余地が認められる結果となっている。

2025年度「データサイエンス入門」授業評価アンケート結果 (回答者数642)



「学生による授業評価」アンケートによる履修者の声では、理解度という観点から見ると概ね良い評価のコメントが多いが、そうではない回答も一部あり、今後の改善に活かしたい。

(履修者の声)

理解度の高さに繋がっていると考えられるコメント

難しいこともわかりやすく説明された点がよかった。/期限を守れば自分の好きなペースで授業を受けることが出来るため、とても受けやすかったです。エクセルの回は、どのキーを押せば良いか画面に出ていたため、演習課題がとてもやりやすかったです。/自分の好きな時間に学べるのが非常に有り難かった。授業資料がわかりやすく、苦手なパソコン作業も理解することができた。/ためになった。/自分のペースで進めれて、演習問題なども解説で分かりやすく、学びやすかったです。/遠隔授業で、自分のやりたいタイミングでスキマ時間などに学習できてとても学びやすかった。また、高校生の頃にやった Excel でかなり苦手意識が湧いてしまっていたが、動画でとても丁寧に解説していただいたので安心してしっかり吸収することができた。/この授業を受けるまで、データサイエンス等についてあまり知りませんでしたが、データサイエンスや AI に対する基礎的な内容、中身をこの授業で、知ることができたため良かったです。この授業で学べたことを今後の自分の将来に役立てればなと思います。/オンラインではあったが、資料とともに解説がされていてわかりやすかったのでよかった。/パソコンの機能をこの授業を受けることで多く知りましたこれからの役に立ちそうです/遠隔授業はとても良いと思った、もっとこのような授業を増やしてほしい。/エクセルの課題のフィードバックが早くて嬉しかったです。/演習課題に取り組む時、映像を見ながら取り組んだが、細かい説明と操作方法が付いていてわかりやすかった。/忘れてしまうことがありましたが、動画を見ながら Excel の使い方を理解できて良かったです。知識も増えました。/エクセルが使えるようになった。/エクセルがある程度わかった。/後半の回で実際に Excel を使ったことで使い方などの知識を身につけられてよかった。自分のペースで学習できるのもよかった。

改善点に関するコメント

演習課題などのリマインドが欲しかった。/動画が分かりづかった。/履修登録時、担当講師によって内容が変わるのではないかと少し

不安だった。シラバスに担当講師による差は無い旨を記入頂けると有り難い。/とても難しかったです。映像画像で理解を深めたのですがなかなか技術取得するのに時間を要しました。/テストは期間が来る前に受けれるようにして欲しかった。早めに、講義を進める人もいいと思うので、それに合わせて最終テストを受けれるようにするべき。/動画での説明が分かりにくい。実践課題も少し分かりにくく点数が取れない。

■プログラム修了者の進路に関する事項

本プログラムは2022（令和4）年度から開講しており、2025年度には本プログラムを修了した学部卒業生を輩出している。修了生の就職先は多岐にわたるが、その中には情報通信業の技術職に就いた者も含まれている。

■改善に向けた取組

（数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること）

「データサイエンス入門」（プログラムの必修科目）について、身近な社会におけるAIの利活用をテーマしており、数理・データサイエンス・AI教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、「社会データ分析入門」「情報と社会」「情報リテラシー入門」（1年次春学期より履修可）、「情報リテラシー応用」（1年次秋学期より履修可）を履修することにより、学修効果を高める。

（内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること）

- ・数理・データサイエンス・AI教育運営部会にて「学生による授業評価」アンケート等を参考にし、随時、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。
- ・オンデマンド型の授業ではあるが、Excelの実習課題でうまくできない学生にはTeamsなどの画面共有機能を活かしてフォローを行っている。
- ・複数の学生から同様の質問が出てくる場合には、その質問に解答するための説明をMoodleに追記したり、必要に応じて動画などを別途作成したりすることで理解度を高められるようにしている。

（産業界からの視点を含めたプログラムの改善）

自治体や企業等に対して、プログラム内容・手法等への意見を、数理・データサイエンス・AI教育運営部会長がまとめ、数理・データサイエンス・AI教育運営部会で、企業等が大学に対してどのような期待や習得すべき技能・知識を求めているかなどを把握し、プログラムの改善に活用していく。